

週間サービス計画表

利用者名 _____ 様

B さん

		月	火	水	木	金	土	日	主な日常生活上の活動
早朝	6:00								
	8:00								
午前	10:00	訪問看護(医療保険)							バイタルチェック
	12:00	訪問入浴							隔週 保清
午後	14:00								
	16:00	定期巡回(2名)							健康状態確認・保清・傾聴
夜間	18:00								
	20:00								
深夜	22:00								
	0:00								
	2:00								
	4:00								
6:00									
週単位以外のサービス									

男性
 (開始時) 71歳
 奥様と夫婦2人暮らし。
 長男 東京 長女 車で通える距離
 食事・内服介助 基本的に奥様が実施

【主病名】
 前立腺がん→骨転移 余命3ヶ月宣告あり ターミナル

【アセスメント】
 在宅に退院後、緩和ケアを行う施設を探すのが、新型コロナウイルスの影響で最後の時間を面会が出来ないのは辛いと家族より。
 意識レベルがしっかりしている間に本人様を中心に「終末をどこでどのように迎えるのか」家族と共に考え援助していく。
 下半身は動かないが、上半身はご自身で動かせる。食事は自己摂取可。
 医療的なケアは往診医・看護師にて実施
 その他の身体的な援助を定期巡回にて実施

【経過】

余命宣告3か月という事もあり、関係形成、安全確保のため定期訪問はヘルパー2名にて実施する。毎日清拭・更衣を実施。訪問時間を奥様が日課としている散歩の時間帯と重ね、奥様の気分転換を図る。終末期を迎えるにあたり、ヘルパーとの信頼構築を早期に構築し安心して生活できるよう環境を整える。

サービス開始時は、随時対応(コール)を遠慮され使用されなかった。金銭面で従来型の訪問介護との比較をされ、サービスを訪問介護に切り替えようかと検討される

2ヶ月目に入ると排便が夜間帯に頻回あり、随時対応・随時訪問が1日1回程度入るようになり、柔軟な対応ができる定期巡回・随時対応型サービスへの理解が深まり、サービス継続を依頼される。

定期の訪問時にはヘルパー訪問を楽しみにされ会話をされ時間をオーバーする事も。奥様より、「ヘルパーさんが来ない時間帯はどうしても塞ぎ込んでたり、私が声掛けても全然やろうとしないのにヘルパーさんが来ると、いきいきとしっかり話したり頑張ろうとする姿が見える。」とお言葉を頂く。

4か月目～

ご本人様は病状の進行は自覚され、マイナス発言など見受けられるようになる。食欲も減退し、上半身の筋力低下も見られる。痛みも増幅し苦痛表情をされる機会も多くなる。ご本人様より、セデーションの希望があり実施される。その後、穏やかにご逝去される。

当初3か月と宣告されていたこのケース。医療チーム・ご家族様と役割を分担し在宅で看取りを行う事が出来た。定期巡回・随時対応型の長所を最大限に生かし、サービス導入時よりヘルパー2名体制で訪問しご本人様と信頼構築が出来た。